

## 2019年度第5回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日時：2019年10月14日（月） 午後6時30分から
- 2 場所：国分寺労政会館 第2和室（3階） （国分寺市南町3-22-10）
- 3 議決権のある理事：7名  
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、堀渡  
欠席者：清田義昭、堀越洋一郎  
事務局員の参加者：

### （1）第1号議案 会員の動向について【報告】

・2019年9月30日現在

正会員83名2団体 賛助会員44名1団体、計127名3団体（合計130）  
（前回理事会時の報告と変更なし）

### （2）第2号議案 当面の財政見通しの検討について【報告・協議】

- ・会計担当からの現状報告と提案に基づき協議した。
- ・上半期の会計の概算では、寄付金収入の総計が、既に予算に計上した予定額の30万円、昨年度実績の49万円弱を超えている。内訳は大口寄付もあるが、会員からの寄付件数も多かった。またブックレットの売上も好調で、既に予算に計上していた予定金額を超過した。
- ・前回の理事会では会費値上げも視野に入れた検討をしたが、今年度は大口の寄付があったことを考慮し、当面来年度の会費値上げは見送る。
- ・会費と事業収入で支出をまかなうのが基本であり、引き続き課題は残っている。収入増と支出を抑えることと同時に、会員増のために一層の努力が必要である。

### （3）第3号議案 （株）カーリルとの共同研究について【報告・協議】

- ・ISBNが付与されていない図書館の同定研究の一環として、（株）カーリルが開発したオープンブックカメラを使って、多摩地域では広汎な図書館で所蔵するが、ISBNが付与されていないことの多い地域資料の同定識別に活用できるのではないかと考え、研究している。
- ・多摩川を主題にする資料を対象に実証実験を行った。調布市立中央図書館の地域資料コーナーで、多摩川関係の分類で棚に並んでいる蔵書（及び追加で地下書庫の蔵書）の書影、蔵書番号、付与されている本についてはISBNを、同カメラで一括で撮影し、書影と蔵書データを紐づける準備作業を行った。8月27日（火）の休館日に作業した。

### （4）第4号議案 第37回多摩デポ講座の企画について【報告・協議】

- ・予定していた「多摩ニュータウン開発資料」関係の講演が、講演者側の延期希望でこの秋にはできなくなった。については以下の企画で行うことにしたい。

・＜講座タイトル及び講師＞

「水濡れから本を守ろう、紙を救おう～災害多発の今、知っておきたい知恵と技～」

講師：眞野節雄氏（都立中央図書館職員、日本図書館協会資料保存委員会委員）

- ・日時：12月7日（土）午後6時30分～9時
- ・会場：国分寺労政会館第3会議室（3階）
- ・資料代：500円 ・事前申込不要：直接会場へ（会員でない方も参加できる）

・趣旨

ここ数年、日本各地で地震、風水害、火山噴火などの自然災害が相次ぎ、あらためて災害多発の国であることを思い知らされています。

さて、講師は10月に日本図書館協会から、『水濡れから図書館資料を救おう！』（JLAブックレット）を出版されました。眞野氏は都立中央図書館で本の修復に携わってこられました。そして、災害で資料が受ける被害には水損、破損、火災などがあるが、想定すべき優先順位は圧倒的に水損＝水濡れだと指摘します。東日本大震災の津波で泥にまみれ、ページがくっつき固まった本を、試行錯誤しながら、驚くほど復元できる技術を見つけたことを紹介しています。

今回の講座は簡単な実技も交えながら、予防対策を含めて、＜水濡れから紙資料を守る方法と心構え＞を学びます。

図書館職員だけでなく、市民一人一人が知っておくといざという時に役立ちます。ぜひプロの技を間近で見て、図書館や家で、本の水濡れに備えましょう。

- ・10月16日締切の『図書館雑誌』11月号の通知欄、及びJLAメールマガジンに掲載を申込むほか、発行を保留している『多摩デポ通信』第52号に記事を掲載し、チラシを同封する等で、11月初旬をめざしてPRを開始していきたい。
- (5) 第5号議案 東京都市町村立図書館長協議会除籍資料担当者会への協力について【報告・協議】
- ・除籍資料担当者会を担当する西東京市の図書館長からは、今年度に各自治体の担当者を集めて開く会には、「多摩デポ」及び(株)カーリルに来てもらいアドバイスを受けた旨、以前から連絡を受けていた。
  - ・日程が12月18日(水)の午後になるとの連絡を受けている。
  - ・参加しTAMALASのノウハウを伝えるほか、参加者からの質疑に応えたい。また各自治体の経験を引き出せるとよい。
  - ・共同保存庫の有用性、多摩デポの基本的な考え方についてきちんと説明する。
- (6) 第6号議案 全国公共図書館協議会への要望書について【報告・協議】
- ・8月に実施した第36回多摩デポ講座に関連し、前回の理事会では、全国公共図書館協議会が行った今回の全国調査は非常に意義あるものであり、さらに掘り下げた追加の調査や政策提言を行ってほしいと全国公共図書館協議会に要望書を出したほうがいい、との議論になっていた。
  - ・「要望書(案)」(別紙)を元に検討し、要望書を出すことは了承した。
- (8) 情報交換
- ①出版ニュース社が所蔵していた図書のその後について
  - ②多摩デポ講座の講師から、大学図書館で『多摩デポ通信』を揃いで製本し保存する申し出があり、1～50号のセットをお渡しした。
  - ③NHK「おはよう日本」ディレクターからの取材への対応の報告
  - ④日本教育新聞社からも取材依頼があり対応した。
  - ⑤8/25に、長野県立図書館を会場に「都道府県立図書館サミット2019」が開催された。
    - ・「都道府県と基礎自治体の関係―『協力』のスタンダードを築く」との注目すべきタイトルが付いた集会で、理事長と事務局長が参加した。

- ・「都道府県立図書館の役割」「県と基礎自治体の関係」は、なかなか議論されないが重要なテーマである。参加した都道府県立の職員には、テーマへの期待もあったのではないかと。締めくくりに議論が不発だった。

⑥依頼を受けて「多摩デポ」が後援する、「竹内哲氏講演会」について

- ⑦多摩デポ関連資料として、個人あての郵便なども資料として保存する必要があるのではないかと。  
→ ファイルを作り、現在事務所に保管してある分も整理してみる。

#### 【多摩デポ記事】

- ・馬場俊明・編著『図書館情報資源概論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8） 日本図書館協会 2012. 12.

※司書資格取得のための教科書だが、「蔵書管理」の章のうち、U 4 3 「分担保存」226p～229p の中で、229 p に「共同保存図書館」の項目があり、20 行の記述がある。滋賀県、富山県、神奈川県の記事の紹介に続いて、「多摩デポ」の取組みが段落を変え、9 行分、紹介されている。この時点の紹介としてはほぼ正確。この Unit の執筆者は、井上康代。

#### 【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

#### ★ カーリルとの共同研究 第 42 回定例会

10 月 15 日（火）午後 6 時 30 分～ 立川市柴崎学習館 2 階和室

#### ★ 事務局会議(2019 年度第 8 回)

10 月 30 日（水）午後 6 時 30 分～

会場：調布たづくり 11 階みんなの広場第 3 テーブル

#### ★ 次回の理事会

12 月 日（ ） 午後 時 分～

#### 5 議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、手嶋孝典理事、堀 渡理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2019 年 10 月 14 日

議長

議事録署名人

議事録署名人